

令和3年度 自己評価書（未満児）

認定こども園総合施設
函館若葉幼稚園

I 「保育の計画性」についての検証結果及び改善策

- ・未満児クラスは、月齢により成長が異なるため、個々の成長に合わせた保育計画を立て、一人ひとりにあった内容にすることが必要であると強く感じた。
- ・多角的に子どもを捉え、より良い保育に努める。
- ・保育の在り方を考え直すことが多く、探りながらの保育が続いたが、毎日振り返り、反省することで翌日の保育や、子ども達への接し方について以前よりも明確になっていった。振り返り、反省、見直しの大切さを改めて感じた。

II 「保育の在り方、幼児への対応」についての検証結果及び改善策

- ・子ども興味関心は何かをよく観察し、気持ちを共感できる関わりを心がける。
- ・乳児期は甘えたい気持ちをしっかり受け止め、安心できる関わりを心がける。
- ・子ども達の発する言葉や行動に耳を傾け、子ども達が何を考え、思っているのか探りながら接するよう心がけた。そのことにより、保育者が思いつかないような発想や行動、発言を目の当たりにし、毎日が楽しく保育者も子ども達も充実していた。
- ・子ども達への関わり方を、その都度保育者同士で話し合い、共通の理解をもって見守り、関わる体制を今後も続けていく。

III 「教師としての資質や能力・良識・適正」についての検証結果及び改善策

- ・自分がすべくことにおいて理解し責任をもって取り込んできたが、十分でないところがあり、保育者の人間関係でも上手くいかないことが多かった。
- ・子どもが理解できるよう、わかりやすく伝え方や見本の見せ方など、不足していることが多々あったので先輩保育者の姿をよく見て学んでいきたい。
- ・保育者としての関わり方や振る舞いを客観的にとらえ、日々自己研鑽に努め、より良い保育を心がける。

IV「保護者への対応」についての検証結果及び改善策

- ・園内に保護者が入れないことから、日々の様子はホームページや連絡帳を活用して細かく伝えていくようにした。直接会うことができない保護者もいるが、電話で話たりとできるだけ接することができるように努めた。
- ・後半はアプリを使い、写真付きで連絡できるようになったことで、保護者とのやり取りが増えたことはとても良かった。
- ・これらかも笑顔で丁寧な言葉づかいを心がけ、保護者に安心してもらえるよう努め、子どもの成長をしっかりと伝え喜びを共感しながら、信頼関係を築いていきたい。

V「地域の自然や社会とのかかわり」についての検証結果及び改善策

- ・園外に出かけることで、自然に触れる機会が多く、また保育の在り方を見直している時期でもあったので例年より子ども達が自然に興味をもち、自ら関わっていく姿が多かった。そうした中で近所に方が声をかけてくださったり、保育者以外の大人と少しだけではあるが、話す機会が多くなったとも感じる。
- ・まだコロナ渦ではあるが、保育者が地域の理解を深め、かかわりを増やしたくさん経験できるようにしていきたい。

VI「研修と研究」についての検証結果及び改善策

- ・研修を多く受けたことにより、これから目指す保育について理解を深めることができ、少しずつ実践することができている。受けた研修の内容について、保育者間で共有し、保育を向上していけるよう努めたい。